



～友愛～

富田中学校だより

学校教育目標 「確かに生きる」 令和 4年 9月12日 No.11

□令和4年度 全国学力・学習状況調査

4月19日(火)に3年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果が公表されました。今年度は、国語、数学、理科の3教科で実施され、その結果とともに生徒質問紙の集計結果も届きました。この調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる目的で実施されています。平成19年から新型コロナウイルス感染症拡大による休校等で中止になった令和2年度を除き、毎年実施されています。



今回の「友愛」では本校生徒全体の結果の分析(調査結果からみえる富田中学校の強み・弱みと今後の取り組み等)をお知らせします。個々の結果は、本日、3年生に個票を渡しましたので今後の学習の参考にしてください。この結果を通知表などの成績に加味することはありません。なお、この調査は学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面であることをご理解ください。

【国語】

全体的な正答率は全国平均をやや下回る結果でしたが、「知識及び技能」の「我が国の言語文化に関する事項」は全国平均を上回っています。問題別では、「行書の特徴を理解する」などといった問題で全国平均を上回っています。しかし、「思考力、判断力、表現力等に関する事項」は「B書くこと」を中心にすべて全国平均を下回っています。問題別では、「自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して書く」「文脈に即して漢字を正しく書く」が顕著に低く、場面に応じて正しい表現や漢字を使うことが苦手であると推察されます。このように、問題形式では、選択式・短答式に比べ、記述式が弱い傾向が見られます。

今後の授業でも、「自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫して話したり書いたりする活動を取り入れる」「文学的な文章では、描写をもとにして、心情の変化や内容をとらえられるようにする」「意見を伝えるために資料から必要な情報を引用し、記述できるようにする」といったことに、より一層力を注いでいきたいと思えます。

【数学】

全ての領域において、正答率が全国平均を下回る結果となりました。特に「関数」の「一次関数の変化の割合の意味を理解している」と「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる」、「数と式」の「簡単な連立二元一次方程式を解くことができる」の正答率が低かったです。また、数式を使つての説明を求められる記述式問題が、国語同様、弱い傾向が見られました。

今後の授業では、「関数 $y=ax^2$ を学習する中で1次関数、関数のグラフと連立方程式のつながりを振り返る」「ドリルパークやワークの活用」「1次関数の変化割合やグラフなどの基礎知識を振り返る」「いくつか座標の具体的な値を出して点を結び関数の概形をつかむ」などの復習や、「データや資料から必要な情報を読み取る」「数学的に説明できる」ことなどを取り入れていきたいと思えます。

【理科】

全ての領域において、正答率が全国平均をやや下回る結果となりました。特に「エネルギー」「粒子」「生命」に関する問題が下回りました。問題別では、「上空の気象現象をもとに推察する」「玄武岩に関わる知識理解を活用する」「生物の分類の視点や基準を解釈する」が平均を大きく上回っています。また、国語や社会同様、理科でも記述式問題に弱い傾向が見られました。

今後の授業では「実験や観察から得られたデータを分析したり、考察したりする」「理由の説明や考察や分析について、わかりやすく記述できるような問題に取り組む」など反復練習の時間を確保す

るとともに、小テスト等を活用し知識の定着を図ったり、学習内容を振り返り記述する機会を増やしたりしていきたいと思ひます。

3教科とも、記述問題の無解答率が全国平均に比べ高い傾向がありました。記述式問題に苦手意識があることや、最後まで粘り強く取り組む姿勢にやや弱い様子が見られたため、日頃の授業から粘り強く取り組めるように促していきたいと思ひます。

以上の結果を踏まえ、基礎基本を徹底するために授業改善を図ったり、家庭学習の課題を工夫したりするとともに、授業中に仲間とともに課題の解決に向けての取り組む機会を増やしていきたいと思ひています。今後も日々の授業を大切に、生徒たちにとってわかる授業・できる喜びのある授業を進めていきたいと思ひます。

【生徒質問紙における特徴・課題】

「朝食を毎日食べていますか」や「土曜日や日曜日など学校が休みの日にどれくらい学習をしますか」など、生活習慣や学習習慣の定着に関する質問に肯定的な回答をした生徒の割合が非常に高い反面、「ゲームを長時間する」「スマホなどで長時間動画視聴などをする」「家で計画的に学習できない」など、家庭生活における課題も見られます。生徒本人が自主的、積極的に生活習慣を整える力が弱い傾向が見られます。

一方で、学校の教科の授業に目を向けると、ICT機器の活用については肯定的な回答が全国平均を大きく上回っています。更に国語、理科の授業では、「好きである」「よく分かる」と答えた生徒が全国平均を大きく上回っています。「1・2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」「1・2年生のときに受けた授業では、自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出す活動をおこなっていましたか」という質問にも肯定的な回答が多く、各教科の授業に対して前向きに取り組んでいる様子が伺える項目が多かったです。その反面、学活など教科の授業以外では、協働的に課題を解決していく活動がやや少なかったことも垣間見えました。

また、「自分には、よいところがあると思ひますか」「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか」「人が困っているときは進んで助けていますか」「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思ひますか」「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思ひますか」という質問に対して肯定的な回答をした生徒の割合が高く、全国平均を大きく上回っているものもあります。本校では、「学校づくりビジョン」の学校づくり三つの決意の一つに、「一人一人を大切にする学校」をあげています。生徒一人一人の良いところ大切にしていこうという教師や生徒同士をつなぐ丁寧な関わりを続けてきた成果であると思ひます。

更に、この学年の特徴として、「読書は好きですか」「新聞を読んでいますか」という質問に対し、肯定的な回答をした生徒の割合が高いのに対し、「自然の中で遊ぶことや自然観察をすることありますか」という回答がかなり少なく、インドア派傾向も伺えます。この読書や新聞を読むことが好きな強みを生かし、読書活動等を通じて活字からイメージする能力や、様々な物語や考えに触れることで豊かな感性を育み、コミュニケーション能力向上へとつなげていきたいと思ひています。

「夢や目標を持っていますか」という質問で肯定的な回答をした生徒が少なかったことについては、1年次からの進路学習を受験や職業にとどめず社会とどのように関わりつなげていきたいかを考える機会としてきたり、2年次にはコロナ禍において職場体験学習が実施できない中、様々な職種の方に講師として講話をいただき、働くことについての学習を通じて将来に向けての自分の生き方を考える機会をつくったりしてきましたが、講話での職種の数が限られていたり、希望する職業について具体的に知る機会が少なかったりしたことが要因のひとつだと考えられます。今後、更に個々に応じたより良い進路選択に向け、担任を中心に相談等の機会を増やし、きめ細やかなキャリア学習指導を心掛けていきたいと思ひます。

生徒たちは学校や家庭、地域において落ち着いた環境の中で生活し、できる範囲ではありますが、様々な活動に取り組んでいます。その中で道徳心あふれる生徒が増えていることも喜ばしいことです。これは、学校、地域、家庭が協力して生徒を温かく見守り育ててきたからだと思ひます。今回の結果から良い点を更に伸ばし、改善すべき点はしっかりと見直しながらか引き続き生徒の健やかな成長と確かな学びを保障していくため取り組んでまいります。今後とも学校教育活動へのご理解・ご協力をよろしくお願ひいたします。